



白石市幼保小連携だより

なないろのかけはし

第1号

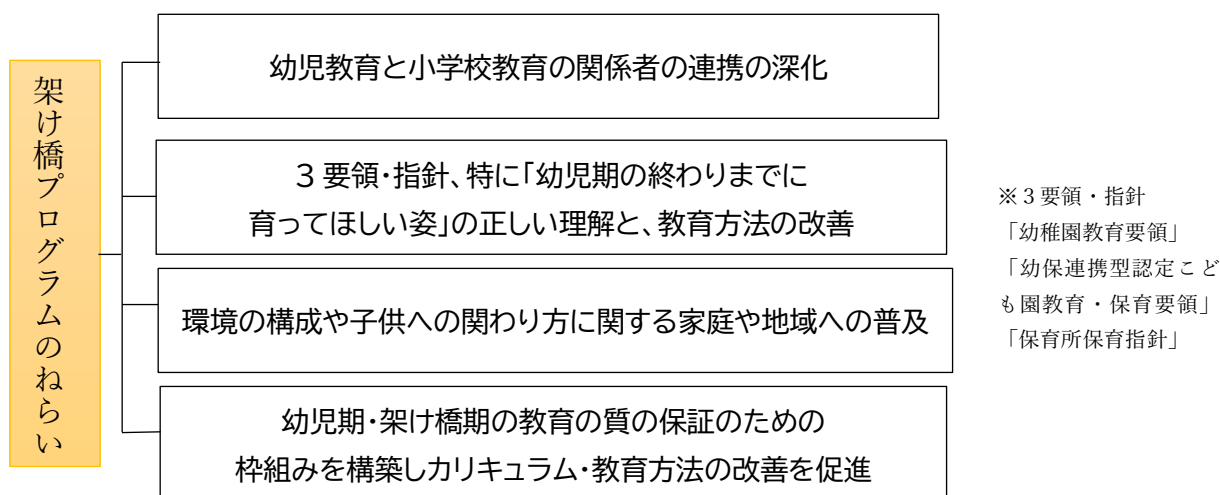
令和5年1月31日発行

文部科学省 幼保小の架け橋プログラム（R4~6）とは



子供に関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

文部科学省では、令和4年度から3か年程度を念頭に、全国的な架け橋期の教育の充実とともに、モデル地域における実践を並行して集中的に推進していくこととしています。白石市もモデル地域の一つになっています。



白石市の取組と方向

域内の保幼小のみならず中学校も協力校に指定し、幼児期における遊びや、小学校における主体的な学習活動中の学びの姿について、その後の中学校における教育とも関連させながら、発達段階ごとの「学びの連続性」を整理することで、架け橋期のカリキュラムの開発・充実に取り組む。

- 接続カリキュラムを5歳児から小学校1年生までの2年間にアップデート
- 保幼小間の相互参観や情報共有・合同研修の機会確保、連携組織の再構築



2022/11/16 大平小・南保育園との交流会



2022/12/23 幼保小架け橋プログラム運営会議

保育体験研修を実施しました～1月23日(月)～



小学校教員が、幼稚園・保育園の保育を1日体験し、園児の実態等を把握することにより、接続カリキュラムづくりに生かしていくことを目的にした研修会です。今回は、架け橋プログラム事業の運営委員の先生方が市内の保育園・幼稚園に分かれて参加しました。

体験者の感想（抜粋）

- ・園長先生から「保育は上手に失敗させてあげてを組織的に見守ること」と教えていただいた。小学校での毎日の活動の中でも、上手に失敗させる時間の余裕を持つことはできないか、考えていく必要があると感じた。
- ・幼児教育と小学校教育は、大きな差があると感じた。けんかをした園児が担任の指導の後、「仲直りができた」とうれしそうに報告する姿を見て、「叱られた」と感じる指導ではなく、「解決した」と感じる指導にしていかなければと思った。
- ・これまでは、新1年生に対して「できないだろう」という先入観があった。しかし、今回の体験研修会で、年長クラスの園児はたくさんのことを経験し、いろいろなことができるようになっていくことを感じた。カリキュラム作成に生かしていきたい。
- ・絵本や紙芝居の読み聞かせ、市の暗唱読本に取り組み、言葉への興味を持たせていることがわかり、小学校の学習につながると思った。

ドッジボールをしよう



給食配膳

暗唱読本を使って

お昼寝の時間

幼稚園・保育園の受入感想（抜粋）

- ・小学校の先生に来園いただき、話をすることで少し距離を感じていた「学校」が近くなったように感じた。
- ・子供の目線に立ってのかかわりやすキンシップを図りながらかかわっていただき、子供たちは大変喜んでいました。就学に向けての安心感につながったと思います。
- ・小学校の先生方が保育園で保育体験することは、今まで実現できそうでできなかったことだと思うので素直にうれしく思います。

体験者・受入側ともに、やってよかったとの感想が多かったです。今後に向けては「この架け橋にかかわる先生方だけでなく、市内の先生方みんなでも共有し、同じ思いになるようにしていきたい」との声がありました。この白石市幼保小連携だより「なないろのかけはし」はその声に応えるべく、架け橋プログラム事業の現状、様子、情報等をお知らせしていきます。